



「縄文遺跡群世界遺産登録推進全道総決起大会」開催！

平成30年10月21日（日）、北海道庁赤れんが庁舎にて世界遺産早期登録実現に向けた総決起大会が開催され、北海道議会議員や関係市町長、市町議会議員、道内の関係団体、縄文ファンなど、総勢200名が集結。北の縄文道民会議からは総勢31名が出席、早期の登録実現を誓い合いました。

大会では主催者である 高橋はるみ 北海道知事、大谷 亨 北海道議会議員、来賓の「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」世界遺産登録推進議員連盟事務局長 佐藤英道 衆議院議員、同議員連盟幹事 中村裕之 衆議院議員の挨拶に続いて、菊谷秀吉 伊達市長が出席者を代表し「1年でも早く登録が実現するように全ての関係者が一丸となり、道民とともに全力で取り組んでいく



決意を表明。結びは、縄文遺跡群の世界遺産登録を目指す北海道議会議員連盟の川尻秀之 会長の御発声により、参加者全員「頑張ろう！」の三唱で締めくくり、世界遺産への登録実現に向けた結束を確かめ合いました。

第2部では、「北の縄文文化の魅力」と題し、札幌国際大学縄文世界遺産研究室長 越田賢一郎 氏の基調講演が行われ大変実りのある大会となりました。



ちよこっと 縄文イベント情報 * 詳細は、チラシやホームページ等でお知らせします。 * 皆様からの情報もお待ちしております！

さらに、縄文文化を知る・学ぶ

- 日 時：11月24日（土） 13:30~15:30
- 場 所：北海道立埋蔵文化財センター（江別市西野幌685-1）
- 内 容：演題「西日本の縄文文化を中心に」講師：同志社大学文学部教授 水ノ江 和同 定員100名。参加無料。お申し込みはお電話で受付いたします。
- 問合せ：公益財団法人北海道埋蔵文化財センター 電話 011-386-3231

参加無料



「縄文太鼓と舞踊の夕べⅡ一萌(きざし)」

- 日 時：11月30日（金） 18:00~19:30
- 場 所：札幌国際大学総合情報館 1階「プラザ」（札幌市清田区清田4-1-4-1）
- 内 容：演奏：茂呂剛伸氏、福田ハジメ氏、舞踊：赤川智保氏 定員50名。参加無料。道民カレッジ連携講座。事前申込は下記連絡先まで。
- 問合せ：札幌国際大学縄文世界遺産研究室 電話 011-881-2433

参加無料



- 編集後記
- ◎ このたび『北の縄文』秋号の発行にあたり、砂川（とちち縄文の会会長）様をはじめ、会員の皆様からご寄稿をいただき、お礼申し上げます。今、道内各地では、縄文文化遺産を生かしたまちづくりへの取り組みが熱気を帯びています。この勢いで世界遺産登録の実現を目指しましょう。(T.H)
 - ◎ 全道総決起大会は、凄い熱気に包まれていました。この勢いで、登録まで一気に向かいましょう！！(K)
 - ◎ 講演を聴くたびに新たな発見が！！毎回とても面白く、目から鱗がポロポロ落ちていきます！！(M.S)

編集・発行：北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録をめざす道民会議 編集長 谷 紘道 編集委員 井上香織、村上志保子
TEL：011-221-1122 FAX：011-221-0117 <http://www.jomon-do.org/> E-mail ebisutan@cbt.chuo-bus.co.jp



HOKKAIDO JOMON CLUB NEWSLETTER

北の縄文

秋

2018

VOL.9

平成30年10月発行

目次	■世界遺産登録の先へP1
	■「とちち縄文のつどい」基調講演P2~3
	■道内各地の活動状況/よもやま話/道外構成資産P4
	■会員メッセージP5
	■縄文トピックス/イベント情報P6

北海道胆振東部地震によりお亡くなりになられた方々にお悔やみを申し上げますとともに被災されたすべての方々に心よりお見舞いを申し上げます。

世界遺産登録の先へ

とちち縄文の会は平成23年に設立以来、地味ではありますが地域において縄文の意義と世界遺産登録の意義について理解を深めてもらい、協力をいただくための活動を続けてまいりました。

十勝では、草創期の大正3遺跡から煮炊きの痕跡が確認された1万4千年前と縄文最古級の土器が出土し、また早期の八千代遺跡の出土品が国の重要文化財に指定されることも有り、住民の関心も徐々に高まって来ているところです。

そんな折から、改めて縄文に思いをいたすことがありました。あの9月のブラックアウトのときに見上げた夜空、降るような満天の星空です。縄文人は晴ればいつでもこのような満天の星を見上げながら星座を描き、物語を紡いでいったのでしょうか。

縄文遺跡群の世界文化遺産登録の実現が近づいています。

世界文化遺産が観光インバウンドの強力な武器となるのは明らかですが、ほかにもそれぞれの地域には「北海道遺産」、アイヌ文化関係、開拓期の遺産、その他豊かな歴史的、文化的な分野の資源が存在しています。

これらと、これまでも定評のある自然環境分野の資源とを組み合わせることで、アドベンチャートラベル等これからの時代に求められ、需要も増大していくことが想定される観光の舞台として、北海道が一層輝くのではないのでしょうか。

このような観点から、文化遺産を生かしたまちづくりについて考えるフォーラムが「とちち縄文のつどい」と題して先日開催されました。道内外の各地域間の連携や地元のボランティアガイドの養成と活用、地域内の二次交通の充実など建設的な意見が出され、議論されました。これからの北海道の可能性の大きさを改めて確認したところです。

とちち縄文の会としては、こうした文化遺産を生かしたまちづくりにも関心を持ちながら、縄文についての住民の理解を深め、広めていく活動を続けていきたいと考えています。

とちち縄文の会 会長 砂川 敏文





平成 30 年 9 月 29 日(土)とちちプラザ「レインボーホール」にて平成 30 年度「アートゼミ事業」特別講座「北の縄文シリーズ」
「とちち縄文のつどい～文化遺産とまちづくり」を開催しました。その基調講演の一部を抜粋してご紹介します。

「文化を核とした価値創造空間を目指して」

- 縄文遺跡群の世界遺産登録の活用 -



北海道環境生活部縄文世界遺産推進室特別研究員
阿部千春氏

道庁縄文世界遺産推進室の阿部です。今回は、まちづくりに向けた話をさせていただきます。

講演タイトルにある「価値創造空間」ですが、これは私が考えた表現ではなく、平成 28 年 3 月に閣議決定された国土交通省の第 8 次北海道総合開発計画にある「世界水準の価値創造空間」を目指すというキャッチフレーズから借用したものです。この計画は平成 26 年度から 35 年度までの目標と施策で、そこでは「食」と「観光」を北海道の戦略的産業と位置づけ、観光では世界水準の観光地形成に向け「アイヌ文化や縄文文化など地域固有の歴史・文化等の地域資源を世界に通用するレベルまで磨き上げる」ことを具体的な目標の一つとして掲げています。十勝地区はまさに食産業の中心ですし、観光面でも北海道観光人口の約 7%を占めていますから、ピットリの計画だと思えます。



1. 世界遺産を目指す遺跡群

「北海道・北東北の縄文遺跡群」として世界遺産登録に取り組んでいる道内の資産を紹介します。垣ノ島遺跡(函館)は縄文時代早期(6500 年前)の

集落跡で墓域も形成され、墓から子どもの足形が付いた小さな粘土板が 17 点出土しています。また後期初頭(4000 年前)には U 字形をした巨大な盛土遺構がつくられています。盛土遺構とは使い終えた土器や石器などの道具類を廃棄した場所ですが、人の墓もあることから単なるゴミ捨て場ではないと考えられています。北黄金貝塚(伊達市)は前期(5000 千年前)に形成された貝塚で、食糧とした貝の殻や魚の骨などが多量に堆積していますが、ここにも人の墓がつくられています。ですから、縄文の人々は「人間は勿論のこと、動物や植物そして土器や石器などの道具類にも命がある」と考え、役割を終えたものの魂に感謝して「送る」という儀式をしていたのだと思われま

す。大船遺跡(函館市)は中期(4500 年前)の拠点的な集落の跡で、クジラやマグロ、オットセイの骨などが多数出土しており、豊かな海の幸によって集落が営まれていたことが分かる遺跡です。入江・高砂貝塚は後期(4000 年前)と晩期(3000 年前)の貝塚で、入江貝塚からは幼いときにポリオに罹り、その後も家族や集落でケアされながら成人まで生きたことが分かる埋葬人骨が出土しています。キウス周堤墓群(千歳市)は後期後半(3200 年前)のドーナツ状の土塁を持つ集団墓地で、最大のものは直径 70m、内部との比高差が 5m に及ぶものもあります。縄文時代の社会構造が複雑であったことが窺えます。

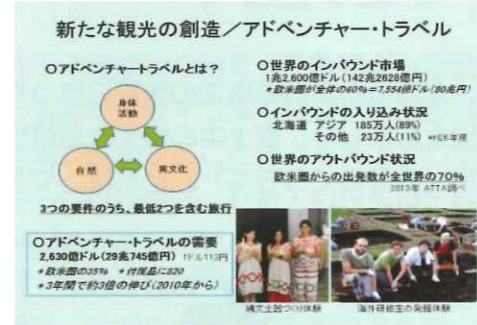
関連資産として鷲ノ木遺跡(森町)があります。直径が 40m に及ぶ道内最大の環状列石で後期(4000 年前)に造られたものです。高速道路の工事に伴う発掘調査で見つかったのですが、遺跡を保存するために手堀でトンネルを掘って遺したようです。いまは構成資産になっていませんが、環境整備が整った段階で追加に取り組もうと考えています。

いま、縄文文化に対する関心が高まっていて、特に海外からも注目されているのですが、これは単に縄文文化が古いとか、技術的に高度だとかいうことではなく、「自然との共生」や「命ある全てのものを尊重する心」など、縄文文化が持っている価値観への共鳴があると感じています。

2. 世界遺産の効果と活用

この 7 月、縄文遺跡群が世界文化遺産の推薦候補として選定されました。今後は環境省が進める「奄美・沖縄」の自然遺産と競うことになるのですが、縄文が推薦され順調に進むと 2020 年の 7 月上旬に登録になります。ちょうど「東北復興五輪」として開催される東京オリパラの開会式の数日前ですし、北海道にとっても「白老の象徴空間」オープンのものであるので、最高のタイミングになります。

世界遺産に登録されると大きな効果や変化が生まれますが、それには文化、教育、地域振興の 3 つの視点があると思います。地域振興では、来訪者が飛躍的に増えるので観光振興のきっかけになります。特にインバウンドの割合が増える傾向にあり、それも文化に関心が高い欧米の来訪者が増えるようです。こうした文化を目的とした観光は、今までとはニーズの異なる観光層ですから来訪者の動き方も違いますし、お金の落とし方も違うので新たな経済効果が生まれます。



その中で注目したいのが「アドベンチャー・トラベル」(AT)です。これは、身体活動、自然、異文化の 3 つの要素のうち最低 2 つを含む旅行形態のことです。縄文文化はまさに異文化ですし、その文化は地域の自然の中で育まれたものです。また各遺跡では色々な体験活動を提供しているので要件は満たしています。AT の需要は全世界で約 29 兆 745 億円です。世界のアウトバウンドは欧米からが 70%、その内 35%が AT を求めているという統計があるので、世界遺産登録になると欧米圏からの来訪者が増えるという状況を見ると、ターゲットを欧米圏に向けた必要もあるだろうと考えています。

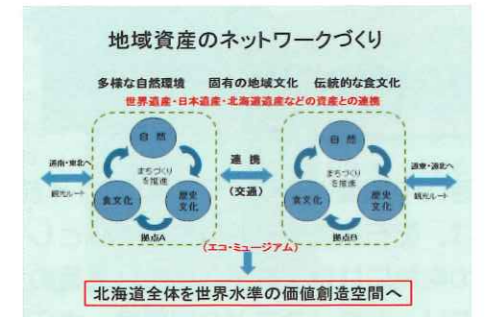
3. 価値創造空間を目指して

縄文世界遺産の観光が成功するか否かは、二次交通の課題を解決できるか否かによると考えています。なぜなら、ほとんどの縄文遺跡は都市部から離

れているからです。函館の例で言うと、新幹線は新函館北斗駅まで来ていますが、北斗市からどうやって遺跡のある南茅部まで周遊させるかという課題があります。これには JR やバス、タクシーなど異なる交通機関をワン・チケットで乗れるような仕組みも必要でしょう。

さらに世界遺産に推薦する構成資産は道南部に集中しているので、いかに十勝圏や道北東部に広がる旅行者の流れをつくり、いかに北海道全体に世界遺産の効果を波及させるかが今後の課題になってきます。それには文化庁が選定する「日本遺産」、食や自然なども対象とした「北海道遺産」、国土交通省の「土木遺産」など異なる文化施策との連携、あるいはオホーツク文化やアイヌ文化など北海道特有の文化資源との連携によって地域間をつなぐことが有効と思っています。また文化財だけでなく、自然や食を一つのパッケージとして「まちづくり」の核にすることも大事だと思います。

問題は「これをどう運営していくか」です。ピジター産業を構成しているのは観光業者だけではありません。まず、コア産業として歴史・文化・博物館・美術館などの核があり、その外側に関連産業としてホテルや運輸、それを支援する放送・出版・建設・金融、そしてその基盤を整備する行政があります。したがって、観光産業とはほとんどの業種が関わる産業なのだという認識を持たなければなりません。



地域の中には学術団体、市民団体、民間企業など様々な団体があります。それぞれに設立目的は違いますが、「より良い地域を目指す」ということは全ての団体に共通する目的です。こういう意識を持った組織のネットワークをつくって皆で取り組み、皆で問題を解決することが、「文化を核とした価値創造空間」形成の実現につながると思っています。

ご静聴ありがとうございました。